



学校だより

平成30年 4月 6日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.482

塩の辛さ、砂糖の甘さは学問では理解できない だが、なめてみればすぐ分かる

校長 谷田 弘子

3月23日に105名の卒業生を送り出し、本日ピッカピカの新1年生が92名入学しました。平成30年度の始まりです。

今年の桜は卒業式には五分咲きで、3月中に満開になり、今は葉桜になっています。春本番、ユキヤナギやレンギョウが満開になり、気持ちが高まる4月です。本年度もどうぞよろしく願いいたします。

「塩の辛さ、砂糖の甘さは学問では理解できない。だが、なめてみればすぐ分かる。」という言葉を使ったのは、世界的に有名な家庭用電気器具メーカー「パナソニック」を作った松下幸之助さんです。松下幸之助さんは、その会社を一から作り、ずっと大きく成長させ続けたので、「経営の神様」とも呼ばれています。

松下幸之助さんは、1894（明治27）年、和歌山県海草郡和佐村（現在の和歌山市禰宜）で生まれました。幸之助さんの子供の頃は、恵まれたものではありませんでした。会社を作ってから成功したのです。

では、どうして幸之助さんは、そのような活躍ができたのでしょうか。そのひみつはたくさんありますが、先程の言葉もひみつの一つです。塩や砂糖は見ただけでは、塩の辛さや砂糖の甘さは分かりません。頭の中で考えるのではなく、まず自分で一口なめてみる。自ら味わってみて初めて塩や砂糖というものが分かるのです。そのような体験を通して初めてものごとが分かることはたくさんあります。先程の言葉で、体験することの大切さを幸之助さんはわたしたちに教えているのです。実際に体を動かして活動して、振り返り、考

えることが学習でも仕事でも大切だということです。

鉄棒の逆上がりで考えてみると、教室で座って先生の話聞くだけでは、逆上がりはできません。鉄棒にさわって、逆上りを何度も練習して初めてできるものです。何度も何度も練習し、その都度考えていくことでできるようになるのです。体験したことを振り返ること、時には友達と考え合うことで、逆上りの練習がより効果的になっていくのです。他にも体験が必要なことがたくさんあります。体験するということはとても大切なことなのです。その体験をする場合に、大切にしてほしいことが三つあります。

一つに、その体験のめあてをしっかりとつこと。ただ、体験することだけが目的ではなく、何のためにするかをしっかりとつこと。そうすると計画をしっかりと立て、一生懸命取り組みます。体験で得られたことを振り返り、他にも応用することが出来ます。

二つに、何をやるにも問いかけをもってほしいことです。自分らしい体験をして、みんなと磨き合いの学習をしてほしいからです。

三つに、人との出会いを大切にしてほしいことです。社会科や生活科などの学習で体験をさせていただくときに、それぞれの仕事をされている方との響き合いを大切にしたいと考えます。生きがい、願い、汗・涙・喜びをしっかりと実感することが必要です。すると、その人を好きになり、生き方を誇りに思うようになります。

今年度も、体験の積みかさねによって、一人一人の児童の将来の夢をもつことにつながるような教育活動を進めていきます。